

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	「ふるさと回帰」促進環境の整備
対象地域	千葉県鴨川市
活動概要	<p>◆テーマ◆「ふるさと」回帰促進環境の整備</p> <p>◆地域の課題◆千葉県鴨川市大山地域は、鴨川市のなかでも農業生産性・市場性とも弱く、農業・農村の維持が難しい地域であったが、棚田オーナー制度とその活動を補完する農食環境一体型・年間一貫型体験活動を行ってきたことにより、多くの都市住民が訪れている。大山千枚田及び棚田から江戸幕府の直轄牧であった嶺岡牧跡の山へとつながっていく景観は、文化的景観として国指定文化財の価値があると判断され、文化庁のモデル事業が実施されるなど田園景観に優れた地である。また、鳥類による環境指標の最高点である17点のフクロウが棚田周辺に生息することを始め、トウキョウサンシュウウオやニホンアカカガエルなど希少生物が多く、春先のコケリンドウやスマシが咲き誇り、夏にはホタルが飛び交い、棚田の裾を流れる川にハヤが群れ泳ぐ姿を見ることができるなど、自然環境に恵まれている。これまでの活動で交流人口が多くなったことに伴い、体験交流をベースにした中で地域を限定した田舎暮らし志向の都市住民から、週末は田舎で暮らすといった安定的な滞在や都市からの移住に対するニーズが高まっている。このようなニーズに応え、鴨川市の活性化を実現するために、鴨川市では2004年に「鴨川ふるさと回帰支援センター連絡協議会」を設立し、農業者及び地域住民に対する都市農村交流活動の啓発活動や、ふるさと回帰を求める人への情報提供活動を行っている。しかし、単なる田舎暮らしへの憧れから来訪する人も多く、地域住民とのトラブルも少なくない。田舎暮らしの実態を地域住民と共に交流の中で理解し、地域にしっかりとした立ち居地を確保することが双方にとって強く求められる。そういったことから、1)二地域居住を受け入れる体制の整備、2)田舎に住むための情報交換できる安定的滞在者及び移住者のネットワークづくり、3)地域住民と安定的滞在者及び移住者との融合を実現するコミュニティの形成、4)安定的滞在及び移住の不安要因となっている伝統的習慣が分からないことによる摩擦の解消、が課題として確認された。</p> <p>◆モデル事業で達成・実現したいこと◆ 「ふるさと回帰支援センター連絡協議会」のコミュニティー活動部会員であるNPO法人大山千枚田では、本モデル事業を通し、二地域居住を促進する上で現在抱える4つの課題に対処する方法を見出し、安心して二地域居住ができる環境の整備を進めていきたい。とりわけ、安心して安定的滞在あるいは移住ができるコミュニティづくりを行いたい。</p>
今年度の主な取組	<p>二地域居住の形で「ふるさと回帰」を促進するため、下図に示した活動を行う。第1に、ふるさと回帰環境調査として、①受け入れ側の環境調査、②都市住民のニーズ調査を行い、二地域居住の受け入れ側の意思、受け入れ環境の確認と、都市住民のニーズの所在を把握し、それを実現する方法の検討をする。③農家民泊、既存旅館、宿泊できる研修施設の利用の形態別に社会実験を行い、推進すべき方法や、各形態別システム整備の方法を検討する基礎データを得る。④移住者等の不安材料である</p> <p>地域伝統が分からず地域のコミュニケーションに入れないという状況を無くすための基礎資料として、伝統的な習慣・慣習に関する調査を行う。次に、地域住民、都市住民、関係機関等による仕組みづくりワークショップを開き、①移住者等のネットワーク形成方法に関する検討、②新たな地域コミュニティの形成方法に関する検討、③そのための伝統的習慣・慣習を安定的滞在者及び移住者が知り、その対応方法についての検討、④体験居住としての農家民泊のシステムづくりなどの整備を行う。その結果をもとに、①農家民泊の提供に関する協定など二地域居住形態別のシステムの整備、②移住者同士が安心して相談し、不安を解消できるような移住者ネットワークの形成、③地域住民と新しく加わる安定的滞在者及び移住者との新たなコミュニティ形成、を実現する。</p>

活動結果	<p>本事業の成果として、二地域居住による地域活性化に対して住民に広く知らせることができた。二地域居住の促進に不可欠な住む場の確保に繋がる土地提供意向は潜在的に多いことが確認された。都市住民は鴨川の自然環境が維持されていることに魅力を感じており、自然環境の維持と二地域居住のための開発との調整が重要であることが確認された。施設利用型二地域居住の柱の一つとみられる農家民泊を推進する核として、農家民泊組合準備会を立ち上げた。移住型二地域居住の先進地であり、成功例とみられている地域でも新旧住民のコミュニケーションは表面的で不満を強く持っていることが確認された。これを、現状解決型のコミュニティにすることで解消を図ったが、好感を持って受け止められた。地域の慣習調査で長狭地区内にある区の運営方法に関するデータが整備された。これに行事等を加えて、地区の慣習を紹介するパンフレットを整備することができた。</p>
当初予想していなかった効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者を対象とした町づくりワークショップが待ち望まれたこととして評価された。地域が旧住民で運営され、肩身の狭い思いをしている新住民が多いことが改めて確認された。新住民も、地域づくりに係わりたいという意向が強く、対等に話を聞いてほしいという想いを強く持っている。町づくりをテーマとする目的的コミュニティを用意しつつ、一緒に飲んで話すという懇親会をセットし、旧住民も参加しやすい形にしたことが奏したものと考えられる。 ・ 鴨川市農家民泊組合準備会が組織され、自主的・持続的展開が見込めるようになった。これは、すぐに農家民宿を行いたい人が6名と少なかつたため、発展的意思決定が容易にできたことによる。反面、多くの様子見の農家に対し、顕在化するよう普及対策が必要になった。
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>○移住希望者調査の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○新旧住民ワークショップの様子</p> </div> </div>
応募団体名	特定非営利活動法人 大山千枚田保存会
リンク	http://www.senmaida.com/index.php
部局／担当者名	理事長 石田 三示
連絡先	04-7099-9050
推薦市町村名	千葉県鴨川市